

コロナ禍の貧困を考える

新型コロナウイルスの感染が拡大し、長期化するなか、住む場所や職を失い、生活の基盤が破壊される方が激増するなど、深刻な「貧困」の問題が様々な形で浮かび上がっています。

しかしながら、「コロナ禍」以前も、生きていくのにぎりぎりの低所得での生活を強いられていた非正規労働者、安定した住居のないネットカフェ難民、シングルマザーの貧困などの問題が存在していました。「コロナ禍」における貧困は、本当に「新型コロナウイルスの蔓延」に原因の本質があるのでしょうか。私達はこの点を今一度考える必要があるのではないかと思います。今年の「三多摩憲法のつどい」では、生活困窮者支援に第一線で取り組まれている雨宮処凜さんに「コロナ禍」における貧困とその支援の実態をお話しいただくとともに、この問題の本質がどこにあるのかを皆さんと一緒に考える集会（ZOOM開催）にしたいと思っています。

お話し：雨宮 処凜氏（あまみや かりん/作家・活動家）

1975年、北海道生まれ。作家・活動家。フリーターなどを経て00年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』（太田出版/ちくま文庫）でデビュー。06年からは貧困問題に取り組み、『生きさせろ！ 難民化する若者たち』（07年、太田出版/ちくま文庫）はJCJ賞（日本ジャーナリスト会議賞）を受賞。著書に『「女子」という呪い』（集英社クリエイティブ）、『非正規・単身・アラフォー女性』（光文社新書）、『ロスジェネのすべて 格差、貧困「戦争論」』（あけび書房）、『相模原事件裁判傍聴記 「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ』（太田出版）など多数。2020年以降のコロナ禍では、4月より「新型コロナ災害緊急アクション」メンバーとして生活困窮者の支援に取り組む。最新刊は『コロナ禍、貧困の記録 2020年、この国の底が抜けた』（かもがわ出版）

聞き手：弁護士 奥田真帆さん

多摩地域の貧困問題に取り組む若手弁護士

開催日時：2021/9/30(木)18:30～

今回はZOOMによる配信形式（無料）

のみでの開催になります。



（雨宮 処凜さん）



⇒右のQRコードからZOOM参加のお申込みをお願い致します。

なお、QRコードのご利用が難しい場合には以下のメールアドレスに空メールをお送りください。

折り返し、お申し込み用のURLをお送りします。URLからアクセスの上、お申込みください。

空メール送信先：kenpo.tsudoi@gmail.com

連絡先 三多摩憲法のつどい実行委員会（三多摩法律事務所内）

〒190-0014 東京都立川市緑町4番地の4 立川北口薬局ビル4階

TEL 042-524-4321 FAX 042-524-4093E-MAIL kenpo.tsudoi@san-tama.com

～当日のタイムスケジュール～

18:30 開 演

18:35 対 談

(お話し:雨宮処凜氏×聞き手:奥田真帆さん)

19:35 質 疑 応 答

(皆さまから事前にお寄せいただいた
質問に答えていただきます)

19:55 閉 会

(20:00 終 了 予 定)

*新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年は会場での開催は実施せずにZOOMによる配信形式のみでの開催になります(無料)。

*雨宮処凜さんへの質問は、事前のZOOM参加お申込みの際に入力していただけます。

